



Technical Note 04-17

データファイルを開く

By Frank Chang, 4D Technical Support
Technical Note 04-17

(原題: Open Data File)

概要

今回の Tech Note の焦点は 4D でプログラムの異なるデータファイルを開くことです。通常、データファイルを特定するには Alt(Windows)あるいは Option(MacOS)キーを押しながら 4D を起動します。サンプルデータベースには、同一のストラクチャファイルで開くことのできる複数のデータファイルがリスト表示され、自動的に 4D を再起動してデータファイルを切り替えられるインターフェースが備わっており、快適にデータファイルを切り替えることができます。

必要なコマンド

Select Folder

ダイアログでフォルダを選択することができます。任意の引数でダイアログに表示するメッセージを設定することもできます。フォルダが選択されるとそのパスが返されます。

Data file

開かれているデータファイルのパスを返す関数です。

DOCUMENT LIST

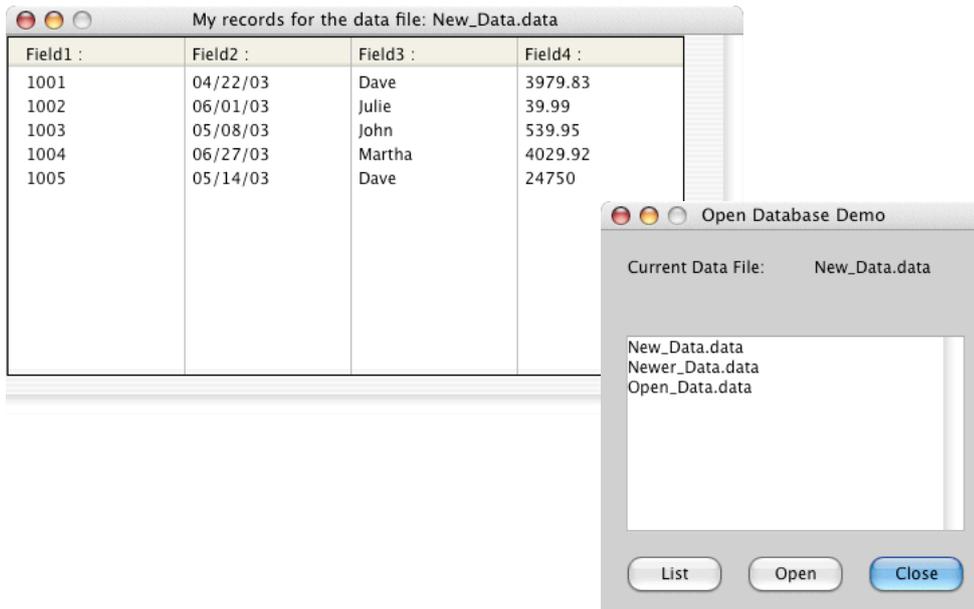
特定のフォルダあるいはディレクトリに含まれる文書のリストを配列に返すコマンドです。

OPEN DATA FILE

ストラクチャを変更せずにデータファイルを開くコマンドです。パスは絶対パス、あるいはストラクチャと同じ階層に置かれている場合はファイル名を渡します。

サンプルデータベース

データベースを起動すると、リストフォームと共にデータファイルの切り替えウィンドウが表示されます。



List ボタンをクリックし、データファイルの置かれている場所を指定すると、その場所にあるデータファイルがリスト表示され、切り替えることができます。

On Startup

はじめにプラットフォームを確認してから Get_Name メソッドでデータファイルの名前をインタープロセス変数<>Currentdatafile に登録しています。

List ボタン

Select folder でデータファイルの場所を聞き出してから DOCUMENT LIST ですべてのファイル名の配列を作成しています。その中から 4D のデータファイルだけを抽出するために Do_Loop メソッドはプラットフォームに対応する拡張子を持つファイルを選別します。

Open ボタン

スクロールエリアの選択項目を調べ、現在開かれているのと同じのデータファイルであれば警告を表示し、データファイルが特定されると ReStart メソッドをコールします。

データコントロール

データファイルとストラクチャファイルの対応関係を固定するために WEDD リソースを利用することができます。4D Customizer Plus でストラクチャファイル、およびこのストラクチャがアクセスするすべてのデータファイルを開きます。WEDD アイコンをクリックし、署名を入力します。署名はストラクチャとデータの両方で一致しなければなりません。リソースを保存すると、WEDD 署名の一致する組だけがアクセス可能になります。

注記:

バージョン 2004 では環境設定で WEDD を編集できるようになりました。